

あなたに会いたい

～オンラインでも「授業」したい！わたしたちの挑戦～

今、あの子は何をしているだろう。何を思っているだろう。わたしたちは、子どもたちと集うことのできない教室の中で、子どもたちの「今」を思っています。子どもたちも同じなのではないでしょうか。友だちのこと、学校にいる動物たちのこと、先生のこと、考えなくなる時があるのだと思います。

本校の学校目標にある「共に在る」。その一つには、同じ場所にいなくても互いを想い合うことはできる、そんな自分自身の在り方への願いが込められています。

しかし、そうは言っても、「一緒にいたい」、「授業したい」、やり直しのきかない今日という日が一日一日過ぎていってしまうことがさみしくて、じっとしてはいられない思いです。

今、わたしたちは、教室に集うことはできなくても、みんなと「一緒にいられる」方法として、「オンライン授業」の可能性を探っています。

やり直しのきかない一日。ただ過ぎているのを待っていることなんてできない。新型コロナウイルスにも負けたくない。だって、**みんなと授業したいから！！**

どんな状況でも、あの子と「授業する」ことを願う 本校の先生方

オンラインで本当に学び合う「授業」になるのか…。



6年国語の教科書の「春の河」。題名は「河」なのに、本文中では「川」とある。なにが違うのか。その「小さな川にまであふれている」ってどんな様子のことなんだろう？教師が大小の川へ探検に行ってみつけたものを動画にして配信したら、一緒に考えたいかな。



無償で配られる「教科書」。実は一人当たり6年間で2万円ほどの代金を国が払っている。総額は年間で約416億円。今の状況ならその法律を変えて別のことに使えないの？そんな対話をチャット機能を使って進めたら、法律と憲法の関係について調べたいかな。



1年生は、「朝の会」のようなイメージからスタートしてみよう。教師が行う「パワフル体操」の動画。パワーポイントで行う絵本の読み聞かせ。自然体験園で見つけてきた「今日の春」の提示。どうかな。わくわくするかな。

「その先生方ならではの発信」。「子どもを想ってつくる資料」。画面越しでも確かに伝わるものがある。今、この状況だからこそ、この可能性をもっと探ってみよう！！





画面上でみんなの笑顔に会える。それだけでも、本当に尊いことのように感じます。

様々に試しながら、今、わたしたちは、オンライン授業を行う場合の時間は15分前後ではないかと想定しています。そして、15分前後の授業の目的は、その時間の中で何かを覚え、一つの授業を完結させることではなく、むしろ、パソコンを閉じた後、「わたしもやってみたい」、「調べてみたい」と動き出したいくなる背中をそっと押し、その子の一日が、少しでも豊かになっていくことではないかと思っています。オンライン授業の可能性を感じ、その実現に向け、さらに研究・研鑽を積んでいきます。

もちろん、わたしたちが取り組んでいるのは、オンライン授業の研究だけではありません。子どもと会えること、「おはよう！」と教室に集えることの尊さを改めて感じながら、学校が再開したその時には、少しでも充実した時間が送れるように、授業の研究、準備、新型コロナウイルス感染予防のさらなる徹底の検討と準備、学校施設の環境整備なども進めています。



附属長野小学校のあなたへ

先生たちとは、みんなが学校に居てもいなくても、つながっているよ。

あなたの先生より